

平成28年漁期 すけとうだら漁獲可能量(TAC)案について

資料2-6

(単位: 万トン)

魚種	系群	資源状態		ABClimit (日本EEZ)					TAC				備 考
		水準	動向	25年	26年	27年	28年	漁獲シナリオ (管理基準)	25年	26年	27年	28年 (案)	
すけとう だら	【中期的管理方針】 日本海北部系群及び太平洋系群については、近年の海洋環境等が資源の増大に好適な状態にあるとは認められない。このため、資源水準の低下が顕著となっている日本海北部系群については、資源の減少に歯止めをかけることを目指して管理を行うものとし、資源管理計画に基づく取組の推進を図るものとする。太平洋系群については、一定の親魚量を確保することにより資源水準の維持を基本として、漁獲動向に注意しつつ、管理を行うものとする。 その他の系群については、ロシア連邦の水域と我が国の水域にまたがって分布し、同国漁船によっても採捕が行われていて我が国のみでの管理では限界があることから、同国との協調した管理に向けて取り組みつつ、当面は資源を減少させないようにすることを基本に、我が国水域への来遊量の年変動にも配慮しながら、管理を行うものとする。												【28年TAC設定の考え方】 【日本海北部系群】 中期的管理方針に則して「④親魚量の増大(0.83万トン)」と同数のTAC(案)8,300トンとする。 【オホーツク海南部】 中期的管理方針を踏まえ、ロシア水域とのまたがり資源であることから、来遊状況が良好な場合に対応できる数量として、近年の最大漁獲量である24年漁期の52,023トンに基づき、TAC(案)53,000トンとする。 【根室海峡】 中期的管理方針を踏まえ、ロシア水域とのまたがり資源であることから、来遊状況が良好な場合に対応できる数量として、近年の最大漁獲量である23年漁期の19,115トンに基づき、TAC(案)20,000トンとする。 【太平洋系群】 中期的管理方針に則して「②親魚量の維持(18.0万トン)」と同数のTAC(案)180,000トンとする。
	日本海北部	低位	横ばい	0.76 (0.65)	0.65 (0.90)	0.74 (0.67)	0.83	親魚量の増大 (④)	1.3	1.3	0.74	0.83	※TACの管理期間は、「4月～翌年3月」
	オホーツク海南部	低位	減少	-	-	-	-	-	5.2	5.3	5.3	5.3	
	根室海峡	低位	横ばい	-	-	-	-	-	2.0	2.0	2.0 (2.7)	2.0	
	太平洋	中位	減少	16.6 (18.0)	15.7 (21.0)	17.7 (18.3)	18.0	親魚量の維持 (②)	17.1 (18.0)	17.1 (21.0)	17.7 (18.3)	18.0	
合 計									25.6 (26.5)	25.7 (29.6)	25.74 (27.04)	26.13	

注1)オホーツク海南部及び根室海峡は、詳細な生態や資源状況が不明なことから、ABCの算定を行っていない。

注2)太平洋は、25年に先行利用(1万トン)の配分を実施。(利用実績はなし)

注3)ABClimit欄下段()書きは、再評価の数量。 TAC欄下段()書きは、先行利用分を除いた期中改定後の数量。

資源評価結果

すけとうだら	資源状態		資源量(親魚量)の状態	漁獲シナリオ (管理基準)	2016年 ABC (千トン)	評価		2014年 親魚量	Blimit
	水準	動向				10年後に Blimitへ回 復する確率	10年間に Bbanを回避 する確率		
日本海北部系群	低位	横ばい	< Blim	ABClimit				37千トン	154千トン
				*① 親魚量の増大(10年でBlimitへ回復)(Frec10yr)	1.4	46%	100%		
				*② 親魚量の増大(20年でBlimitへ回復)(Frec20yr)	6.4	6%	100%		
				*③ 親魚量の増大(25年でBlimitへ回復)(Frec25yr)	7.5	4%	100%		
				*④ 親魚量の増大(30年でBlimitへ回復)(Frec30yr)	8.3	2%	100%		

すけとうだら	資源状態		資源量(親魚量)の状態	漁獲シナリオ (管理基準)	2016年 ABC (千トン)	評価		2014年 親魚量	Blimit
	水準	動向				5年後に Blimitを維 持する確率	10年後に Blimitを維 持する確率		
オホーツク海南部	低位	減少	—	—	一注1	—	—	—	未設定
根室海峡	低位	横ばい	—	—	一注1	—	—	—	未設定
太平洋系群	中位	減少	> Blim	ABClimit				397千トン	151千トン
				*① 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	119	100%	100%		
				*② 親魚量の維持(Fsus)	180	92%	87%		

注1) オホーツク海南部及び根室海峡については、既存の情報からは資源量の算定が困難なことから、ABCの算定は行っていない。

注2) * のついたシナリオが中期的管理方針に合致する。